

アジア・ビジネスキャリア・プログラム（ABCP） 活動報告



（北タイの紙づくり体験：本学参加学生とチェンマイ大学のバディと共に）

- **研修目的：** 派遣先大学において、語学スキルを向上させるとともに外国文化の理解と国際感覚の醸成を図り、また、現地企業への訪問を通じてアジア経済のダイナミズムを体感する。
- **派遣先：** タイ王国・チェンマイ大学（本学協定校）
- **派遣期間：** 2020年2月6日～3月14日（38日間）
- **研修内容**
 - チェンマイ大学での英語学習（4週間）
 - チェンマイ地域での企業訪問（2企業。なお、バンコクでの企業訪問活動は中止）
- **参加学生（学年次は参加時）**
 - [2年次生] 上林慎一郎 平野有沙 光吉崇 板倉悠佑 京極宰 原田健斗 松田梓
 - [1年次生] 中山博貴
- **引率教員** 江川暁夫（経済学部准教授）



①関西国際空港（研修へ出発）



②タイ語学習の様子



③英語学習の様子



④英語学習でピクニック



⑤現地の学生と英語での交流



⑥クラスの友人と晩御飯



⑦バディの家で



⑧バディとの食事



⑨YAMAHA Music 訪問（企業概要の聴取）



⑩Classic Model & Classic Lanna Thai 訪問



⑪ムエタイ体験



⑫タイマッサージ体験



⑬チェンマイのサンデーマーケット



⑭1か月過ごした寮



⑮乗合タクシー（ソンテウ）で移動



⑯傘・扇子ペインティング



⑰シンハーパーク



⑱バンコクから帰国

研修日程

出発：2020年2月6日 関西国際空港出発、バンコクへ
バンコク1泊（アジアティーク視察）



チェンマイ滞在（2月7日～3月11日）

2月7日 バンコクからチェンマイへ

- ・ チェンマイ大学で歓迎式
- ・ 大学生活に関するオリエンテーション
- ・ チェンマイ大学Book Fair視察

2月8日 バディと対面。

- ・ 大学内で交流会
- ・ チェンマイ大学内を案内
- ・ チェンマイ市内のフラワーフェスティバル見学



○ **語学研修**（2月11日～3月6日）

- ・ 本学学生のみが参加する英語クラス・・・週4回、午前、毎回3時間
- ・ チェンマイ大学学生と学ぶ英語クラス・・・週2回、午後、毎回1.5時間

○ **タイの文化研修**

- ・ 桃山学生へのタイ語クラス（週1回程度）
- ・ タイマッサージ体験（2月10日）
- ・ ランタン作り（2月24日）
- ・ ムエタイ体験（2月27日）
- ・ タイ料理教室、傘・扇子ペインティング（3月9日）
- ・ タイダンス（3月11日）



※3月の文化研修は、新型コロナウイルスの流行により企業訪問がキャンセルになった代替。

○ **エクスカージョン（休祝日）**

- ・ チェンマイ市内・郊外（エレファントキャンプ、ドーイステープ寺院、ナイトサファリなど）
- ・ メーリム（北部の国境付近）
- ・ インタノン山（タイ最高峰の山）
- ・ チェンライ県



○ **企業訪問**（3月10日）

- ・ YAMAHA Music（音楽教室事業）
- ・ Classic Model & Classic Lanna Thai（タイ伝統衣装風被服メーカー）

3月10日 送別会・修了証書授与



バンコク滞在（3月12～13日）※当初は企業訪問予定であったが、新型コロナウイルスの流行によりキャンセルとなったため日程変更。

- ・ 市内見学（エメラルド寺院、ワット・ポーなど）
- ・ チュラロンコン大学見学
- ・ NEONナイトマーケット視察



①語学学習（桃山クラス）

平野有沙（2年次生）

私たち8人は、チェンマイ大学で英語を前半後半に分かれて二人の方に指導していただきました。そして、週に1度、タイ人の先生にタイ語を教えてもらいました。

私は、人より英語がとても苦手で、短文で英語を書くことはできても、思ったことを英語で話すことや英語を聞き取ることは高校や大学の授業だけではどうしてもできませんでした。しかし、英語しかない場所で勉強することで、全く聞き取れなかった英語が自然と聞き取れるまでに成長しました。返答するのに少し時間がかかりますが多少は話せるようになり、今後、就職してからの将来に役に立つように感じています。

英語の授業では、最初は発音から細かく教えていただきました。最初はRとLの違いが全く分かりませんでした。日に日に分かるようになり、意識して発音するようになりました。また、英語でのゲームを取り入れながら楽しく学びました。そして、自然をテーマにピクニックをしながら英語を学んだりもしました。例えば、自然に関する形容詞をみんなで言い先生が英文を作ってくださったり、先生が形容詞を言い私達が英文を作っていくといったものでした。

他にも2人一組になり、チェンマイ大学にある自然をテーマに写真や動画を撮り、それをプレゼンするといった活動をしました。私のグループはチェンマイ大学にいる動物や虫に30分でどのぐらい出会えるかということプレゼンしました。動画を編集し写真をつなげることやプレゼンの時の英文を考えることなどを、1時間という短い間で仕上げないといけなかったのが大変でしたが、英語でプレゼンをする大変貴重な体験ができました。

英語もたくさん勉強しましたが、毎週水曜日にはタイ語も学習しました。英語でタイ語を教えてくださいるので、最初はタイ語の文法を理解することが難しかったのですが、できるまで一人ずつ発音を練習するなど細かく教えてくださったので、勉強していくうちに自己紹介や好きな食べ物、嫌いな食べ物、色、物くらいは言えるようになりました。またバディさんもタイ語を教えてくださいましたので、私が話したことが通じた時はとてもうれしかったです。1日に6時間タイ語の勉強をした時もあり、先生もしんどかったと思いますが、ずっと笑顔で教えてくださいました。タイ語の勉強が楽しかったことを覚えています。また、タイ語を勉強した日にお土産を買いにナイトマーケットに行き、「もう少し安くしてもらえませんか」と言ったり、商品の色を言うときにタイ語で言ってみたりして、楽しく復習もできました。

このABCPでの留学を通して、タイ語も英語も、現地でしか学べない方法で学ぶことができ、大変貴重な体験ができたと感じています。最初はとても不安でしたが、江川先生、タイの先生方々、バディの方々、ABCPのメンバーのおかげで大変楽しく語学学習をすることができ、充実した留学生活を送ることができました。

②語学学習（タイ人との合同クラス）

板倉悠佑（2年次生）

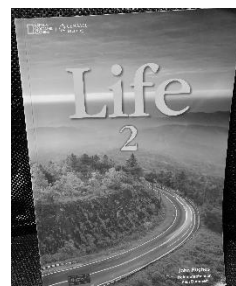
ABCPの大きな目標の一つである英語学習。その中でも現地の学生と共に学ぶ英語クラスが実際どのようなものだったのかについて報告します。

クラスは、事前に受けたTOEICの点数に基づき4つに分けられました。高い点数であれば発展的な英語学習を、まあまあな点数であれば基礎英語学習を受けることになりました。どのクラスでもクラスメイトと交流する機会があるので、自分の目的に合わせて事前に勉強するとよいと思います。授業は週2回、午後の時間に、チェンマイ大学の学生向けの英語クラスに参加さ

せていただく形式でした。このクラスでは、バディの学生とは完全に離れ離れになりました。

私は基礎英語学習を受けるクラスに参加することになりました。このクラスでは、教科書に基づき仮定法や分詞構文を学びました。文法の話をするると嫌悪感を示す日本人もいますが、基本的に高校までの英語がある程度身につけていたら対応可能だと思います。そして、私たちはネイティブスピーカーではないので、失敗を恐れずにどんどんトライすればいいと思います。留学の時に必ず出でくる質問として「英語力は上がるか？」というものがあります。積極的に授業や雑談に参加して英語でやりとりをすれば、上がっていきませんが、ただ受けているだけでは日本でやるのと変わらないので、英語力は上がるとは言えないでしょう。

チェンマイ大学のタイ人学生との交流に関しては、「海外のクラスで友達が作れるのか？」という不安や疑問があるかと思いますが、「英語力関係なく自分から動け」という答えに尽きます。相手からしてみたら、いきなり知らない人がクラスに入ってきてどうしたらいいかわからないからです。しかし、彼らも、我々に興味がないわけではないので、その時こちらから話しかけていけば、相手も喜んで答えてくれると思いますし、今回、実際にそのようなことができました。最初、クラスに行った時は、「誰？」みたいな感じで誰も話しかけてはくれませんでした。しかし、授業の中で、「今どこをやっているかわかる？」と聞くと、わかりやすく教えてくれました。そのあとは、授業が終わってからは、簡単な挨拶、雑談をしてSNSを交換するまでに至りました。さらには一緒に休みの日を過ごしたり、夕飯を共にするなど、充実した生活を送ることができました。今でも交流が繋がっていることを考えると、自ら動いて良かったなあと思います。逆に言えば、「待っているだけでは何も得られない」ということを改めて認識することとなった英語学習でもありました。



タイ人学生との合同
クラスでの教科書

③バディとの交流

原田健斗（2年次生）

私は今回の研修で様々なことを学びました。そのほとんどが日本では体験できないような貴重な体験でしたが、その中で私が最も印象に残っていることは、バディとの交流です。この研修でバディとの交流を深く持ったことによって、英語力の向上と海外の人との関わり方を学ぶことができました。そしてバディとの交流があったからこそ、海外についてもっと勉強したいと思い、また英語力を伸ばしたいと思えるようになりました。

バディの方々は、私たちと同じ大学生ですが、桃山の学生よりもはるかに頭が良いと感じました。そのため、英語で会話していると聞き返してしまうことが多々ありました。私たち桃山の学生の勉強不足にもかかわらず、何度も分かるように説明してくれました。私はバディの方々に申し訳ないという気持ちがあった反面、この聞き返す行為をすることで自分の英語の勉強になっているという充実感も得ました。そして、バディの方々と英語で会話することで、英語を話すことへのためらいがなくなりました。

英語を学ぶ研修である以上、英語力が上がったという体験は当然のことに見えるかもしれませんが、しかし、バディと交流する中で、英語力の向上以外に、自然と外国の人との関わり方を学ぶことができていたことに、自分自身、とても驚きました。私はバディの方々と英語での会話が十分に通じなかったと感じていました。英語能力というものは1日、2日ですぐに向上

するものではありません。だからこそ、身振りや手ぶりや表情というものが大切になってきます。私は動物園に行った際、バディの1人であるタイ人のニックと一緒に行動しました。以前から少し話をするぐらいで、その時はあまり仲良くありませんでした。どのようにしたらタイ人であるニックと仲良くなれるのか。考えた結果、言葉は無理だから身振りや手ぶりや表情を意識するようにしました。そのおかげで、会話がいつもよりもスムーズに進んで、プライベートの話までできるような仲になりました。そして、ニック以外のバディの方々と関わる時も、このことを意識し、次第に仲良くなっていきました。仲良くなったことで、勉強のやり方や自分の将来について話し合うことが多くなりました。私としては、外国の方の考え方は日本人には無い考え方が多く、とても興味深いものでした。このことを通じて、文化や言葉が違う人と話をする中で、以前の自分には無かった新しい発見や考えが生まれるのだと感じました。だからこそ、仲良くなり、話をするためには、英語の能力だけでなく身振りや手ぶりや表情を意識することはとても重要なことだと感じました。そして、将来は海外と関わるような仕事がしたいと考えている私にとっては、バディと交流することでこのような気づきができたことがとても良かったと思います。

ABCPでの研修は、バディと交流をすることで自分が成長できた機会でした。だからこそ、これからもバディとのつながりを大事にし、今度またどこかで出会ったときには自分の英語力の成果を披露し、彼らに「あの時の経験のおかげで自分は成長できた」と感謝を伝えたいと思います。

④企業訪問

松田梓（2年次生）

私たちは、YAMAHA MusicとClassic Model & Classic Lanna Thaiの2社を訪問しました。

YAMAHA Musicでは、まず、同社の歴史や企業概要について、ビデオを見ながら説明を受けました。創立者のヤマハ・トラクスが1887年に壊れたリードオルガンを修理した時に始まり、以来、伝統工芸と高度なデジタル技術を融合した高品質な製品を生み出し続けています。現在は楽器製品の販売だけでなく、ヤマハ音楽学校を開校したり、毎年音楽祭を開催するなど様々な事業に取り組んでいます。これらの事業は、経済発展に大きく貢献し、また、多くのプロのアーティストやミュージシャンの音楽のキャリアを創出しています。そして、今後の目標として音楽事業をもっと幅広く展開することを掲げ、サウンドと音楽に対する独自の専門知識と感性を持ち、現在、世界中の人々と共に興奮と文化的なインスピレーションを生み出すことに取り組んでいます。こうした説明のあと、社内に隣接するヤマハ音楽教室の様子を見学し、同社が製作したスピーカーで音楽鑑賞をさせていただきました。音楽教室では、年齢別にカリキュラムが組まれており、リスニングや歌、演奏を含む音楽の基本的な要素を身に付けるレッスンが行われていました。音楽鑑賞では、同じ音楽を聴いていても、使用するスピーカーが異なると音の質が変わり、低音や高音になったりすることに驚きました。これはヤマハ独自の技術によって、スピーカーに音の周波数を調節できるシステムを搭載しているからだそうです。また、スピーカーなどのオーディオ機器と同じく、ヤマハ楽器の音質にも長年蓄積されてきた技術力と同社の熟練した職人技が反映されていました。

Classic Model & Classic Lanna Thaiは、タイの東北地方で織られた美しく質の良いタイシルクを使用した、品の良い洋服を製作する企業です。普段使いにも少し改まった席にも着用できるシンプルなワンピースやスカートから、民族衣装風の個性的なものまで、デザインが豊富で

す。洋服の製作現場を見学し、生地であるタイシルクを触らせてもらったあと、実際に裁縫体験で小さな縫いぐるみを作りました。タイシルクのスカーフは、とても滑らかな手触りでサラサラしていて、洗練された独特な色柄が魅力的でした。同社の製品は高額なものが多いのですが、タイシルクのスカーフは750バーツ前後とお手頃価格でした。また、オーダーメイドも可能で、既存製品に比べると値段は張りますが、ドレスなら1週間前後で仕上がるそうです。オーダーメイドの中では、約3か月かけて刺繍などが施される1万6,500バーツのスカートもあり、現物をみたときはその美しさと細かい刺繍に見入ってしまいました。



Classic Model & Classic Lanna Thai の
社長から説明を聴取

2社の企業訪問はとても貴重な経験となり、タイに進出している日系企業ならではの工夫や、タイ独自の文化に沿った異国のビジネスについて学べる良い機会になりました。

⑤文化研修

上林慎一郎（2年次生）

私は、ABCPでたくさんの事を経験することができました。その中でも「文化研修」を経験し感じたことなどをまとめていきたいと思います。

私は1年生の夏休みにBSPタイを経験しており、タイに行くのは2回目でした。ですがBSPタイに比べると期間も長く、体験できた活動も多く、BSPタイでは触れることのなかった文化に触れることができたのはすごく貴重で、嬉しく思います。

私がいちばん印象に残っている文化研修は「ムエタイ」です。私は5歳のころから空手をしていることもあり、とても格闘技が好きです。またムエタイはタイが発祥地であり国技にもなっています。昔からK-1やキックボクシングなどの試合を見てきましたが、タイ人は頭一つ抜けて強く、いつか体験しにジムに行き実際に練習してみたいと思っていました。BSPタイでは経験ができず非常に残念でしたが、ABCPで体験できたのはすごく嬉しかったです。

まず体験をする前に師範に対しての敬意を示す踊りがありました。空手にも、形は違いますが始める時に挨拶があり、その点はすごく似ています。敬意を示すのは何事にも大切だと、改めて思いました。そして柔軟、シャドーや技のコンビネーション、ミット打ちなどがあり、いい汗をかくことができました。日本の学生で格闘技をやっていたのは私だけだったので、練習が終わってから師範たちやバディたちに「何か日本で格闘技しているの？」と聞かれ、「空手をしています」と答えると、師範は空手のことも知っていて、ちょっとした技も教えてもらうこともできて、本当に空手をしてきてよかったなと思いました。また私自身、英語を伝えるのも難しく、なかなか言葉を伝えられないでいた中、ボディランゲージで言葉以外でも工夫し伝えることができ、すごく成長できたなと感じました。

印象に残っているもう1つの文化研修は、「タイマッサージ」を習ったことです。これもタイではとても有名で、チェンマイやバンコクの至るところで店がたくさん並んでいました。この体験もBSPでは経験することができず、ABCPならではの体験だったと思います。私たちは2人一組となり、首、肩、腕、足など全身のマッサージを教えてもらいました。全身のマッサージが終わると体がとても楽になっていて、適切なポイ



ムエタイ体験

ントをしっかりと刺激することで良い効果が発揮されていることも体感で学ぶことができました。合計5時間ほどあり、最後に受講の認定書もしてもらうことができました。その後、チェンマイ滞在中に2回ほどタイマッサージ店に行きました、そこでマッサージをしてもらうとすごく体が軽くなり、やはり教えてもらいながらも素人がするのとプロとでは当たり前ではありますが全然違うなと思いました。

その他にもたくさんの文化研修に参加することができました。ABCPに参加したことで、英語力向上だけでなくタイについても更に深く知ることができたと思います。

⑥チェンマイ生活

京極 宰（2年次生）

日本から遠く離れた異国の地で1か月間生活したことは、私の中でとても良い経験になりました。私は、今まで1週間以上自宅を離れたことがなかったため、勉強と両立して身の回りのことを自分一人で行えるのか、自分の英語が通じるのか、ホームシックにならないかどうか、そもそも海外での生活に対応できるのか、などという不安がありました。結果として、それらは全て問題なく達成でき、チェンマイでの生活はとても楽しいものとなりました。

チェンマイはとても充実した都市で、レストランやコンビニ、スーパーも揃っています。近くのショッピングモールには、日系企業の店舗が出店しており、店頭に並んでいる商品も日本とほぼ同じでした。なので、生活用品に困るといったことはありませんでした。

また、ほとんどの場所で英語が通じるので、何かわからないことがあっても人に尋ねることができました。タイの方は基本的にやさしいので、拙い英語でも聞き取ろうとしてくれます。なので、自分たちも安心して話すことができました。空いた時間や寮に戻ってから、その日に学んだ英語や英単語、簡単なタイ語などを勉強しました。段々英語に慣れてくると、タクシーやマーケットなどで値段交渉にもチャレンジしてみました。最初はなかなか通じず、言われた通りの値段を支払っていましたが、回数を重ねるうちに、コツをつかみ、簡単なタイ語を混ぜることで、相手も応えてくれるようになりました。日本では普段、値段交渉はあまりする機会が無く、初めての体験だったので、とても面白いと感じました。

私の中での懸念していた食事に関しても、おいしく食べることができ、私がタイ料理を好きになるきっかけにもなりました。寮からの食事の提供は朝食のみだったので、昼食、夕飯は自分たちで取りました。タイの外出文化に則って私たちも毎日外食をしました。タイの友人や授業の先生からおすすめの店を教えてもらったり、時々連れて行ってもらうこともありました。一食100円前後と非常に安く、店ではなく屋台で食べると、さらに安く済ませることができました。なので、毎日外食でも経済的な負担になることはありませんでした。チェンマイ市内を移動する際は、タクシーを利用していました。運賃が安いうえに、屋根付きの荷台に椅子がついているだけのものなので、とてもスリリングでタイらしいタクシーでした。

見るもの、感じるものがすべて初めてであり、チェンマイでの1か月はとても刺激的なものでした。出発前は、1か月という期間はとても長いと感じていましたが、現地で生活するうちに「もっとここにいて、いろいろな体験をしたい」と思い始め、1か月では短いと感じるようになりました。私たちはとても内容の濃い充実した1か月をチェンマイで過ごすことができました。1か月間海外で過ごしたという経験は、今後の自分への自信にも繋がると感じます。機会があれば、またチェンマイを訪れたいです。

⑦帰国してからの自分の変化

光吉 崇（2年次生）

ABCPを終え、日本に帰ってくると、この期間がとても短く感じられました。ABCPでは、日本で普段の生活をしていると体験できない事がたくさんできました。そのため、日本に帰ってくる途中で、日本に着くとこれからどのような生活をしたいか、この留学を終えて自分がどのように成長できたのかを考える時間が今まで以上に増えました。

帰国後、日本に着いたとSNSに投稿すると、タイで繋がった友達から、無事についてよかった、との連絡が入り、また、日本は今どのような状況なのか、日本での生活についてなど、タイから帰ってきても、英語でメールをする機会がありました。他にもSNSの投稿を英語で書いて、タイの友達が反応してくれることもあり、大切な友達ができたと感じました。

日本では、タイで話していた時のように、英語を話す機会が少ないため、発音を忘れることが怖かったので、英語で映画を見て字幕を付け読む練習をすることや、単語での発音を覚えるなど、日常の中に英語を話す機会を自分で作るようになりました。

この期間で、自分たちは今まで以上に英語に触れることができ、自分たちがどのレベルかを理解することができました。そのため、日本にいたときの勉強ではなく、タイで学んだ勉強法を帰国後も続け、英語を自分のものにしなければならぬとひしひしと感じました。企業訪問では、リスニング力が試され、聞いたことから質問を考え答える必要がありました。そこでは、リスニングができて、その場で質問の文章を考え話すことに少し時間がかかったため、日本語の文をすぐに英語でできるようにする力が必要だと感じ、帰国後はそこに重きを置いて勉強するようになりました。このように、自分に足りない物がそれぞれにあり、それらを課題として帰国後も勉強する目標ができました。短期の留学では、リスニング力が伸びると聞いていましたが、自分の体験からも、その通りだったと感じます。

気持ちの面では、留学に行ったことで、自分から何か動き出す力が身についたと思います。タイでは、新しい環境に置かれ、待っていても得られることは少ないので、自分から積極的に、現地の学生に話しかける必要がありました。分からないことをそのままにしておくと、授業について行けないので、質問することや先生とのコミュニケーションをとることが大切だと感じました。日本では、質問することが恥ずかしいことだという認識があるため、今までは、していなく、分からないことはそのままにしておいたが、今回の留学を通して、自分が変わる必要があると感じました。

ABCPで得た物は一人一人違いますが、日本に帰ってきてからの生活では、自分に足りない英語を補う勉強に励んでいます。内面的には、積極的に自分から行動を起こすことや、将来の事を考え、英語をどのレベルまで身につけるかなど、将来設定ができました。残りの大学生活で、自分たちができることを最大限に行い、学生生活でしかできない体験や経験を積む努力を怠らないようになりました。

⑧ABCP参加後の目標

中山 博貴（1年次生）

私は、今回の研修で、タイの社会や文化、経済など様々なことを学び、今後の目標を見つけることができました。これからの学生生活は、以下のことを集中的に取り組んでいこうと決心しています。

まず国際言語である英語力の向上です。なぜなら、英語力を向上することで自分の行動範囲

が広がることを実感したためです。現地でお世話になったバディとは英語を使って話しました。バディは私の想像よりはるかに英語を流ちょうに話していました。そして、彼らは私のために英語を何度も話してくれました。その時私は、彼らのように聞き取りすぐに話せないことがとても悔しく感じました。この悔しさをバネにより英語の学習に力を入れます。

次に第三言語力の向上です。なぜなら、言葉をいくつか覚えるだけで現地の人達との距離がより近くなることを実感したためです。私は、現地へ行く前に簡単な挨拶を覚えました。滞在先のフロントスタッフにタイ語で挨拶をしました。最初は自分も慣れていないので緊張しました。彼らは笑顔で必ず挨拶をしてくれるため、私も笑顔で挨拶できるようになりました。そして、英語が流ちょうに話せなくても、自分の意思で伝えようと努力することは大切だということを学びました。研修でのバディは私の意図を汲み取るために何度も聞いてくれました。そして、英語を話せるようになるためには何度も話すように挑戦すべきだと言われました。私はここで自分の意思で伝えようと努力することは大切だということに気づきました。

最後に、今回の研修でタイを中心にASEANの国々についてもっと学びたいと感じました。なぜなら、今後のビジネスにおいてASEANの国々とはつながりが薄まることはないためです。そして、日本とは違うところに面白さを感じたためです。以前まで、ビジネス面では日本のお客さんの中心は中国でした。ですが、今ではそれは変わり、ASEANの国々（タイ、ミャンマー、インドネシアなど）に変わりました。今後のお客さんとなるタイなどのASEANの国々の方の嗜好、つまり何がよく好まれるのか、何が好まれないのかを知ることは大事だと思います。私が日本と違うところで感じた面白いところは屋台です。日本の祭りにある屋台のような感じが毎日あります。私は何度も食事をしました。これはおいしいのかと考えてチャレンジしたり、現地の人がたくさん注文しているのを見ました。これは日本には見ることができない光景だと思います。

以上から、ABCPで学んだ英語を基に、積極的に話すように心がけ、レベルアップをしたいと思います。まずは英語を話せるようになり、そして、第三言語力の向上を図り、ビジネスで必要とされるグローバルパーソンを目指したいと思います。

○ 引率者講評（経済学部准教授・江川暁夫）

2019年度ABCPでは、参加学生には、これまでの自主性に任せた事前準備ではなく、TOEICのスコアの伸びのチェックを通じて英語を本気で準備してもらいました。その甲斐もあって、例年に比べ、現地での受入れはスムーズだったように思います。また、バディとは英語で会話することにより、短い滞在期間の中で、これまでに経験したことがないくらいに英語に触れる機会があったのではないかと思います。

残念ながら、コロナ禍もあり、企業訪問の大半がキャンセルとなってしまったため、ABCPのプログラムを十分に経験してもらうことはできませんでしたが、危機対応も含め、8人が自らのやるべきことを考えながら、真剣かつ楽しく、取り組んでくれたように思います。また、春学期においても十分にミーティング等を重ねたり事後のTOEICテストの受験などにより、英語の進捗やアジアのビジネス体験を自らの将来設計に生かしていく、そこまでがABCPであったわけですが、大学への入構もままならず、中途半端に終わった感は否めません。

しかし、その分は、みなさんが自らの高い意識で、十分に自らのアピールポイントに変えていくことと期待しています。みなさん、お疲れさまでした。